

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第14号



熊本大学医学部保健学科第15回同窓会総会後記念写真（平成30年6月30日）

目次	同窓会会長あいさつ	1
	保健学教育部長あいさつ	2
	在校生の寄稿	3
	職場紹介	4
	安田セツ子奨学助成基金の設立について	5
	同窓会総会議事録	6
	特別講演	7
	熊本大学卒業生表彰	8
	国家試験合格状況	8
	前年度卒業生の進路状況	9
	保健学科教員紹介	9
	同窓会会則・細則	10
	同窓会役員	11

**2019年度保健学科同窓会総会、
特別講演、懇親会のご案内**

日時：2019年7月6日（土）
14時00分より

場所：熊本大学医学部保健学科

ご 挨拶

同窓会会長 **春 田 昭 一**

(済生会熊本病院／医療技術短期大学部衛生技術学科5期)

同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より医学部保健学科同窓会へのご理解とご支援を頂き誠にありがとうございます。

本年度より同窓会会長の任を拝命しました春田昭一（医療技術短期大学部衛生技術学科5期）と申します。

平成15年10月に医療技術短期大学部および教育学部特別教科（看護）教員養成課程の統合再編により熊本大学医学部保健学科が設立され15年を経ちました。保健学科同窓会設立当初は、名簿管理、会報発行などご苦労されたことが多々あると伺っておりますが、諸先輩方のご尽力により、会報も14号を迎えることができました。

前会長の橋田昌弘様が会長就任の際に会報で記されていましたが同窓会の役割として3つあげられています。まず、①橋渡しの場の提供：卒業生と保健学科、卒業生と在校生、各施設（病院）と保健学科、②在校生への支援、そして、③同窓生間の情報交換の場の提供。これからもこの3つの役割を遂行すべく、同窓会として尽力したいと思います。3つの役割のうち2つを兼ねている同窓会総会は、毎年7月第一土曜日に開催していましたが、今年度は熊本大学連合同窓会（7月7日ホテル日航開催）との兼ね合いから6月30日に開催され、総会 52名（卒業生 29名、学生 22名、教員 1名）、懇親会 31名（卒業生 19名、学生 12名）の参加がありました。今回の特別公演は熊本県警本部サイバー攻撃対策の担当者より、「サイバー空間における脅威の情勢と対策」という内容でお話いただきました。皆さんの中にも沢山の方が利用されているSNSの注意事項やインターネット環境における犯罪についてお話いただきましたが、施設内の検査機器等も外部からアクセス可能であることは、まさに脅威でした。さらに、実際にパソコン数台を持ちこまれて、なりすましメールの実演もして頂きました。情報化時代に生きる我々にとって安易に利用するのではなく注意と責任が必要であると痛感しました。

その他、卒業生職場紹介では各学科から1名ずつお話し頂きましたが、総会の後、実際に職場まで見学に来られた学生さんもおられたと言うことで、企画をしている我々にとっても嬉しい事であります。

そして、もう一つの役割である在校生への支援に関しましては、実際に保健学科の先生方のご意見を伺いながら検討を進めていきたいと考えています。しかしながら、同窓会の予算も限りがあることから、同窓生の皆様には寄付金をお願いしているところです。どうぞご協力をお願いします。そんな中で、昨年12月に昭和18年熊本大学医学部付属看護学校をご卒業されました安田セツ子様（旧姓：松原様）より、多額のご寄付を承りました。安田様の思いを尊重して基金を設立し、奨学助成金として活用させて頂くこととしました。残念ながら安田様は今年の3月に永眠されましたが、この場をお借りして、安田様のご冥福をお祈りしまして、心から御礼申し上げます。

先輩方の皆様の同窓会へのご支援のお気持ちを無駄にしないように、役員一同、頑張りたいと思っております。次回同窓会総会は新しい年号になって初めての総会となりますが2019年7月6日（土曜日）を予定しております。皆様にお会いできることを楽しみにしております。今後とも同窓会をよろしく願います。

～保健学科の発展に向けた同窓会との連携強化～

大学院保健学教育部長・保健学科長 前田ひとみ

熊本大学医学部保健学科同窓会会員の皆様には、オープンキャンパスをはじめ、日ごろから保健学科・保健学教育部へのご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。本年4月1日付で、保健学教育部長・保健学科長を仰せつかりました、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程卒業生の前田ひとみと申します。どうぞよろしくお願いいたします。

18歳人口の大幅な減少が予想される中で、文部科学省は国公私立の枠を超えた連携・統合までも可能とする大学大改革を発表しました。熊本大学は附属病院を持つ総合大学である強みを活かし、学部教育においては高い実践能力を備えた医療人を養成しています。そして、保健学教育部では、基礎学部での知識・技術をより発展させ、かつ統合することにより、保健学の学問体系の確立と発展に貢献できる高度医療専門職業人及び研究者、教育者の養成を目指した教育を行っています。このように熊本大学では基礎学部である保健学科から大学院博士後期まで一貫した教育が可能であるという強みと特色があります。卒業生の活躍は大学の高い評価につながりますし、大学の評価が高くなれば卒業生にとってはメリットになると考えます。

保健学科・保健学教育部の活性化には、卒業生の力や卒業生との連携は欠かせません。しかし、保健学科・保健学教育部の教員に占める保健学科同窓会会員の割合は高いにも関わらず、特に保健学科になってからの同窓会会員と大学とのつながりが希薄であることを感じています。同窓会総会では卒業生・在校生・教員との交流が行われていましたが、今後、合同での研究会やセミナーの開催など、更なる卒業生と大学との連携強化と卒業生への支援を目指した「しかけ」を考えていきたいと思っています。また、保健学教育部は、フルタイムの職業を有する社会人学生も学べる体制を整えています。医療現場を知っているからこそ、見える課題もあると思います。保健学教育部で高度な専門的知識と研究能力を培って、医療現場でリーダーシップを発揮できる医療専門職業人、教育者、研究者を目指しませんか。

最後になりましたが、保健学科同窓会のさらなるご発展と、会員皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。今後とも引き続き、保健学科並びに保健学教育部の発展のために、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

在校生の寄稿

“いのち”の為に働くこと

大学院保健学教育部 博士前期課程2年 池部桂生

熊本大学医学部保健学科での4年間、熊本大学大学院での2年間は多くの師に恵まれました。医の道を志す為の知識を教えてくれた先生方、共に切磋琢磨し刺激的な毎日を通じた友人たち、皆様が私の師であり、かけがえのない存在です。そんな素敵な環境で過ごせた6年間で、私は命を救う為に必要な知識、技術、考え方を学ぶことが出来ました。

病院実習や臨床検査技師としてアルバイトでは、貴重な経験をさせて頂きました。医療従事者としての高度な知識、技術、立ち振る舞いに圧倒されるとともに、その一挙一動を見逃さず、自分のものにしようと必死になったことは今でも覚えています。膨大なデータや高度な技術を用いて、命を救う為に働く先輩方の姿は私の目標となりました。

学び、そして目標を胸に私も“いのち”の為に働きたいと考えます。私はご縁あり、製薬会社へ就職することが決まりました。熊本大学で培った学びを活かし、病院で働く先輩方のように、企業から、病院に、患者様に、命に、貢献したいと考えます。卒業後、これまで背中を追いかけてきた先輩方と肩を並べて働けるよう、また私自身がこれから学ぶ方の目標となるよう、残り半年、これまで以上に日々邁進します。

6年間の学生生活で私は、多くを学び、目標を見つけ、将来を決めることが出来ました。いずれも私一人の力ではなく、環境に皆様に恵まれたお陰です。末筆ながら厚く御礼申し上げます。

目の前のことを1つ1つ

看護学専攻4年 古林愛莉

大学生になってからの月日はとてもあっという間で、気付けば卒業の年を迎えます。看護学生としての大学生活は、入学前に想像していたものよりも多忙で、実習やレポート、試験など目の前にあることをこなしていくことに一生懸命でした。

なかでも3年生から本格的に始まった臨地実習では、困難にぶつかることも多く、挫けそうになることもありました。医学的な知識や技術を学ぶばかりではなく、目には見えない患者さんの気持ちにも思いを巡らせ、悩み続ける日々でした。挫けそうになりながらもこうして実習を乗り越えることができたのは、熱心にご指導くださった先生方や同じように悩みながら一緒に頑張ってきた友人の存在があったからです。友人たちと励まし合いながら、自分自身も学びを深め、大変さの中にも楽しさを覚えるようになりました。実習を乗り越えたときの達成感、これまで感じたこともない程とても大きなものでした。同時に、苦痛の中にある患者さんを身体的にも精神的にも支えることができる看護職への魅力はさらに高まりました。

目の前のことを1つ1つ乗り越えていくことに精一杯の日々でしたが、今振り返ってみると、大きく成長でき、笑顔溢れる充実した4年間だったと思います。そして、この4年間を乗り越えられたことは、私の中で大きな自信となりました。これから看護職として働いていく中で、困難にぶつかっても、これまでの経験を糧として、目の前のことを1つ1つ乗り越えていきたいと思っています。

大学生生活を振り返って

検査技術科学専攻4年 仲地勇紀

私の環境は、義務教育を終え、大学へ進学したのを機に大きく変わりました。私生活における活動の幅は広がり、一人暮らしを始め、アルバイトやサークル活動などを通して多くの経験を積むことができました。

また、学業においては、専門性の高い内容に対して戸惑いを覚えることもありました。しかしながら、理解を深めようとして学習するうちに、新しい発見や興味を引く内容に出会うようになり、積極的に学業に励むようになりました。

特に、私たちは臨床検査について学んでいますが、授業では分野ごとに内容を扱っています。そのため、知識を分野ごとに脈絡なく暗記することが多く、学習に苦勞することがありました。しかし、臨床の現場では、全ての知識が関連して運用されていることを実際に目の当たりにしました。そこで、学習においても各分野の関連を考えることで臨床検査に対する理解が深まりました。

学内実習においては、操作を実際に行いながら手技を磨き、個人やグループで結果や実習の内容について考えることで、測定操作や原理に対する理解を深めていきました。

このように、私の大学生生活を振り返ると、学業と私生活の両面において、実際の体験を通して、机上の学習では得られないものを学ぶことが多く、人生の中でも多様な経験を積むことができた期間であったと思います。この経験を活かして、大学卒業後も多くの体験を重ねて、成長していきたいと思っています。

大学生生活の4年間

放射線技術科学専攻4年 荒田大介

私の大学生生活は、とても実りのある4年間だったように思います。入学当初は、診療放射線技師になるために必要な知識を、身に付けられればよいとばかり思っていました。講義は、一般教養と専門分野に分けられ、一般教養では歴史や心理学など、一見必要とは思われない内容でした。しかし、実際に受講してみると、とても興味が湧いて視野が広がりました。専門分野では発表形式の講義もあり、受け身で講義に臨むのではなく、自ら進んで学ぶ姿勢が身に付きました。また、一人でただ勉強をするのではなく、友人と分からないところを教え合いながら、定期試験対策をしたりしました。そういった友人との出会いは、私にとってとても幸運でした。授業後や、また定期試験後の飲み会などで、将来やバイトのことなどの話をするなかで、それぞれの見方があって、とても良い考え方をするものだと感心して刺激になりました。

楽しい思い出のひとつに、大阪旅行があります。それまでは友人同士で泊まりがけの旅行をしたことがなかったので、友達と計画を立てることから楽しかったです。とくに私は、食べることが好きなので、初めて行った道頓堀で、たこ焼きや串カツなどの食べ歩きができて良い思い出となりました。

大学生生活のなかで、自ら学ぶ姿勢を身に付けることができ、さらにお互いを刺激し合える友人と出会い、有意義なものとなりました。大学で学んだことを、これから診療放射線技師として働くうえで活かしていきたいです。

職場紹介

医療法人社団愛育会 福田病院

片平起句 (旧姓:百田) (医療技術短期大学部看護学科12期・専攻科助産学特別専攻12期)

当院は、熊本市中央区にある病床数161床の産科・婦人科と小児科の病院であり、総職員数は626人（うち看護職260人）です。2017年は、出生総数が3,770名となり、日本で一番赤ちゃんが生まれる病院としてメディアで紹介されています。

当院は、地域周産期母子医療センター（NICU21床、MFICU9床）の役割を担っており、母体や新生児搬送の受け入れを行い、熊本県の周産期医療に貢献しています。

当院の特徴として、母子サポートセンターがあり、その活動内容は、生まれてくる子どもの最善の利益を目指し、全職員による児童健全育成・児童虐待防止に向けた子育て支援、必要により特別養子縁組に関する取り組みを行っています。平成29・30年度は熊本県産前産後母子支援事業の委託を受けております。

また、妊産褥婦や子ども、地域の方々との交流、支援、情報発信を目的とした、田植、いいお産の日、低出生体重児の親子交流会、双子・三つ子の交流会などのイベントを実施しています。

当院で働く人にとっての魅力は①たくさん学び、技術習得が可能②スキルアップ支援（奨学金制度、資格取得支援）があります③長く働けるための支援があります（例えば、フィットネスジム、院内保育園、夜間保育、病後児保育、独身者用寮など）。

当院は、女性の幸福を実現すべく努力しております。

医療法人創起会 くまもと森都総合病院

溝上幸洋 (医療技術短期大学部衛生技術学科22期)

私はこれまで17年間お世話になった済生会熊本病院を離れ、4月からくまもと森都総合病院で勤務しています。高度急性期医療の提供が使命だった済生会熊本病院とは違い、総合病院機能を活かし在宅復帰まで支援することで、急性期から在宅復帰まで切れ目のない医療を提供することを使命としています。また、がん診療連携拠点病院の役目も担っており、血液腫瘍や肝臓癌、女性特有のがんである乳癌や子宮癌の治療にも力を入れています。

私の専門は細菌検査ですが、働く場所は変われども基本的な業務の流れは変わりません。しかしながら、済生会熊本病院にはなかった血液内科、婦人科、皮膚科、眼科などに関連した感染症は独特なものが多く、教科書や

学会などで見聞きした程度でしかなかった病原菌にも出会うことができます。提出された検体から患者背景を確認、感染病巣と病原菌を予想し必要な検査を行う。予想と一致しなかったときは次の一手を考え病原菌を突き止める。報告した病原菌の多くは診断・治療に直結するので責任は重いですが、久しく味わっていなかった“原因を突き止めた喜び”みたいなものを日々感じています。

少しだけ残念なことは、検査科に同窓生がいないことです。今後は実習生の受入れなどにも力を入れ、同窓生がいる職場であることを知ってもらい、在校生の将来の選択肢が一つでも増えるよう新天地で頑張ろうと思えます。

国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院

成田政弥 (保健学科放射線技術科学専攻7期)

私が勤務している「国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院」は全国に33施設ある共済組合連合会の病院になります。病床数361床、診療科20科、職員数668名、昭和26年に開設し今年で68年目となります。当院の病院理念は「質の高い誠実な医療による地域への貢献」であり、地域のかかりつけ医を支援し入院を中心とした急性期医療を提供するために職員一同日々の業務に邁進しております。

私が所属している放射線科は現在、放射線科医6名、診療放射線技師19名、看護師14名、事務員5名です。一般撮影、CT、MRI、透視、RI、放射線治療、血管造影など様々な検査を行っています。2016年9月より日本で1台目となるIQon Spectral CTを導入し、Spectral解析により腎機能の低い患者様への造影剤の減量やヨード密度画像、実行原子番号解析など、今までなかった画像を提供できるようになりました。3T MRI装置も2018年9月に更新し、日本初となるIngenia Elitionを導入し今後どのようなことができるのか楽しみです。このように当院では最新の装置やソフトを扱うことができるので、放射線技師としてとても勉強になり、やりがいを感じます。

また、当院の放射線科の特徴として、読影室と操作室の一体化があげられます。放射線技師と放射線科医が隣同士に位置し1つ1つの症例について協議しながら検査を進めていくので、読影医が求めている画像や臨床についての知識もつき、放射線技師としてのレベルアップにつながるシステムとなっています。学生の皆さん、当院を就職先の候補の1つとしていかがでしょうか。

安田セツ子奨学助成基金の設立について（お知らせ）

平成29年12月、同窓会事務局へ3,000万円のご寄附をいただきました。寄附をくださった同窓会会員の安田セツ子様（旧姓：松原様）は、昭和18年熊本医科大学付属病院看護婦養成所のご卒業で、愛知県名古屋市港区にご在住です。現在90歳で療養中のご病気が進行されており、早い時期に寄附をしたいとのご連絡をいただき橋田会長がお会いして寄附金をお預かりしてきました。安田様の名前を冠した奨学基金としてご寄附を活用させて頂きたい旨をお伝えすると非常に喜ばれ、ご病気によりお話することはできませんでしたが、筆談で、ご本人が学生時代に経済的にご苦勞をされたので、経済的に困っている学生さんに使って欲しい、また、これを契機に苦学生に対しての支援の仕組みを作ってもらいたいというご意向でした。また、ご自分の人生の最後で、少しでも社会貢献ができて、非常に嬉しいと話されていました。

残念ながら平成30年3月に安田様は永眠されましたが、いただいた寄付金を「安田セツ子奨学助成金」として活用させていただくために、基金の内規（規則）を作り、平成30年度内の運用開始を目指しています。安田

様ならびにご家族様の尊いご厚意に心より感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。



真ん中が安田様（後ろはご長男様）

以下は、安田様のお手紙（原文）より一部抜粋させていただきます（掲載にあたってはご家族のご了承をいただいております）。

私こと安田セツ子は昭和十六年四月に熊本医科大学付属病院看護婦養成所に入学し、昭和十八年卒業生です。この度舌がんによる最後の告知を受けましたので、給付生として看護の教育を受け、熊大の看護理念の証として寄附を申し出ましたところ、奨学基金をつくりたいとの構想が言葉になりました。そうだが、だったら一千万円では足りない、三千万に、と思った時、そばにいました長男・三女が私の心を察知して、全部使っていいよ、母さんの思い通りにして、と言ってくれましたので即決したのです。

（中略）私は給付生として出発し、三女は小学校六年生の時に夫が病に倒れ生死をさまよいました。その時某私立校より特待生として入学し、短大までを学校の特待として卒業しております。（中略）おかげで夢とあきらめていた社会への恩返しが自分の母校の奨学基金の設立に発展し、その種の三千万円。本当に意義ある人生として終わる私は最高の幸せ者です。

エンドレス 終着駅は始発駅 セツ子

どうぞお願いします。基金が設立されましたら、働きながら慶びごとに出会った記念として三千万、或いは五千万、との都度よろこびの寄附、はげましの協力は働いている中にしています。自分の反省にもはげましの起爆剤にもなると私は考えます。どうぞ信念と理念の完成を心より応援しお祈りします。

一粒のしずく大河となるいのち セツ子

言葉はしゃべれませんが、まだ何とか字は書く力がありました。一二月二十二日夜ごろより出血が始まり、朝四時にまた二回目がありました。いよいよ最後の修業に入ると思われます。

この峠、越えるときと花野だろ セツ子

第15回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成30年6月30日（土） 14:00～17:00

場 所 熊本大学医学部保健学科E506（5F）

出席者数 45名

議 長 西村寿章先生（熊本中央病院）

<総会式次第>

開会の辞

同窓会会長挨拶

保健学教育部長挨拶

議長選出

議事

1. 平成29年度事業及び会計に関する報告

- ① 事業報告
- ② 決算報告
- ③ 監査報告

2. 平成30年度事業計画（案）

3. 平成30年度予算（案）

4. その他

閉会の辞

【議事要旨】

14時、羽手村副会長より開会が告げられ第15回同窓会総会が開会された。

最初に、春田会長が会を代表して挨拶を行い、続いて前田熊本大学大学院保健学教育部長のご挨拶が行われた。その後、西村先生（熊本中央病院）が総会議長に選出され、議事に従い4項目の議案の審議が行われた。



報告並びに会計監査報告は賛成多数で承認された。

2. 役員改選について

春田会長より、平成30年度からの役員改選について報告があった。

3. 平成30年度事業計画（案）について

春田会長より、平成30年度事業計画（案）について説明があった。

4. 平成30年度予算（案）について

平成30年度予算（案）について松本会計幹事より説明があった。質疑応答では特に質問はなく、その後、採決を行い、参加者の賛成多数で平成30年度事業報告（案）、平成30年度会計予算（案）は承認された。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、降壇した。

最後に、羽手村副会長より閉会の挨拶があり、同窓会総会は、14時27分に終了した。

次に職場紹介において、看護学専攻 片平先生、放射線技術科学専攻 成田先生、検査技術学専攻 溝上先生から職場紹介が行われた。

最後に特別講演として熊本県警本部サイバー攻撃対策担当者より「サイバー空間における脅威の情勢と対策」と題した講演会を行い、その後、懇親会が行われた。

平成30年6月30日

議事録署名人 梶原隆太郎

1. 平成29年度事業報告及び会計に関する報告

春田会長より保健学科のオープンキャンパスへの支援や同窓会会報第13号発行、第14回同窓会連合会への参加、卒業生表彰等、1年間の事業が報告された。松本会計幹事より29年度の会計について決算状況が報告された。その後、橋田監事より平成29年3月28日に行った会計の監査結果について、適正であったとの報告が行われた。質疑応答では特に質問はなく、その後賛成多数で平成29年度事業報告、決算



総会風景

懇親会風景



特別講演

「サイバー空間における脅威の情勢と対策」

熊本県警察本部警備部警備第一課 企画・サイバー攻撃対策室

スマートフォンの普及が拡大したことでインターネットがより日常生活に身近になり、スマートフォンが1台があればお店に足を運ばなくても購入した物が自宅に届く時代です。

しかし、インターネットには、このように大変利便な一方で危険性もあります。

昨年、世界的に大規模感染を巻き起こしたランサムウェアについては、イギリスでは手術などの医療サービスが中断したため救急患者を別の病院に搬送せざるを得ない事態になったと報道されました。

また、ランサムウェアの影響が特に深刻であったのは、MRIやCTの画像データをやり取りする病理診断部門であったとする報道もありました。

平成27年に、日本年金機構が標的型メール攻撃を受けて、約120万件の年金情報が流出した事件がありました。被害の発端は電子メールに添付されたコンピュータウイルスでした。

ウイルス感染などのサイバー犯罪や機密情報流出などのサイバー攻撃の被害にあわないためには、日頃からパソコンを適正に管理する事が重要です。

ウイルス対策ソフトを最新の定義にアップデートをすることはもちろんのことですが、OSやソフトウェアを最新の状態にアップデートすることも必要です。

また、皆さん方の職場や大学には、必ず情報セキュリティポリシーがあると思いますが、必ず守るようにして下さい。組織と皆さん方を守るためだけでなく、患者さんを守るためのものでもあるからです。

サイバー空間における脅威から100%の防御ができる対策は、残念ながらないのが現状です。ですが、ウィル

ス対策ソフトをきちんと更新することや、OSなどのソフトウェアのアップデートをきちんと行い脆弱性をいち早く解消することなどで、被害を未然に防ぐことができる可能性が高まります。

また、USBメモリなどの外部記録媒体の扱いに関しても、決められた情報セキュリティポリシーを守って慎重に扱うことを忘れないで下さい。

そして、情報セキュリティに関して皆さん方に一番お伝えしたいことは、「知識よりも意識」ということです。これは受け売りですが、もちろん、インターネットやコンピュータの知識があることにこした事はないのですが、それよりも情報セキュリティを「意識」することが必要だと言うことです。

それは、どんなに優れたセキュリティソフトや高額なセキュリティ対策の機器を導入したとしても、やっぱり最後の砦は、機器を利用している私たち「人」だからです。

こうした情報セキュリティに対する意識を一人一人が持つことが、サイバー犯罪やサイバー攻撃に対する最大の防御となります。

最後に、医療機器やシステムなどのセキュリティの技術的な設定などについては、システム担当者の方をお願いするとしても、それらの医療機器や患者さんの情報を扱うパソコン等を利用する医療の現場で働く皆さんや、これから医療業務に従事されるであろう学生の皆さんにおかれましては、情報セキュリティポリシーをきちんと守り、サイバー犯罪やサイバー攻撃の被害にあわないように情報セキュリティを「意識」した利用を心掛けるようにして下さい。



熊本大学卒業生表彰

平成30年度国立大学法人熊本大学卒業生表彰の表彰式が、11月4日の第13回ホームカミングデーに開催されました。この表彰は、熊本大学の発展又は社会からの理解促進につながる顕著な功績のあった本学卒業生に対し、学長が行うもので、今回は第7回になります。

本年度、保健学科同窓会より以下の方々が表彰されました。

安田セツ子様（熊本医科大学付属病院看護婦養成所 昭和18年卒業 故人）

本 尚美様（熊本大学医学部附属看護学校 昭和54年卒業）

植川 利之様（熊本大学医学部附属診療放射線技師学校 昭和46年卒業）



第7回卒業生表彰者（平成30年度）
（安田セツ子様は、長男様が代理で出席されました）



国家試験合格状況

平成30年3月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国（含既卒者）		
		受験者数 （人）	合格者数 （人）	合格 率 （%）	受験者数 （人）	合格者数 （人）	合格 率 （%） （うち新卒者）
看護師	25	68	68	100.0	58,891	52,900	89.8(95.2)
	26	70	69	98.6	60,947	54,871	90.0(95.5)
	27	69	69	100.0	62,154	55,585	89.4(94.9)
	28	66	66	100.0	62,534	55,367	88.5(94.3)
	29	67	67	100.0	64,488	58,682	91.0(96.3)
保健師	25	73	73	100.0	17,308	14,970	86.5(88.8)
	26	74	74	100.0	16,622	16,517	99.4(99.6)
	27	28	28	100.0	8,799	7,901	89.8(92.6)
	28	19	19	100.0	7,590	7,172	90.8(94.5)
助産師	25	12	12	100.0	2,079	2,015	96.9(97.6)
	26	10	10	100.0	2,037	2,034	99.9(99.9)
	27	16	16	100.0	2,008	2,003	99.8(99.8)
	28	13	12	92.3	2,053	1,909	93.0(93.2)
	29	11	11	100.0	2,230	2,201	98.7(99.4)
診療放射線技師	25	35	34	97.1	2,907	2,224	76.5(89.9)
	26	42	39	92.9	2,839	2,094	73.8(85.2)
	27	37	34	91.9	3,016	2,377	78.8(90.9)
	28	35	34	97.1	2,939	2,511	85.4(96.0)
臨床検査技師	25	41	40	97.6	4,148	3,368	81.2(94.3)
	26	37	36	97.3	4,298	3,528	82.1(93.8)
	27	47	43	91.5	4,400	3,363	76.4(87.4)
	28	34	31	91.2	4,739	3,729	78.7(89.9)
	29	37	34	91.9	4,829	3,828	79.3(90.5)

平成29年度卒業生の進路状況

H30.5.1

看護学専攻（卒業生67名）		
（就職）		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	13
熊本赤十字病院	熊本県	1
慈恵病院	熊本県	1
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	7
医療法人社団愛育会 福田病院	熊本県	3
熊本県庁	熊本県	1
熊本市役所	熊本県	1
御幸病院	熊本県	1
菊陽町役場	熊本県	1
九州大学病院	福岡県	5
福岡県庁	福岡県	2
福岡赤十字病院	福岡県	1
国立病院機構九州グループ	福岡県	1
JCHO九州病院	福岡県	1
苅田町役場	福岡県	1
社会医療法人財団白十字会白十字病院	福岡県	1
福岡大学病院	福岡県	1
小倉記念病院	福岡県	1
福岡徳洲会病院	福岡県	1
大分赤十字病院	大分県	1
大分県庁	大分県	1
新別府病院	大分県	1
佐賀県庁	佐賀県	2
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	3
岡山大学病院	岡山県	1
兵庫医科大学病院	兵庫県	1
神戸市民病院機構	兵庫県	1
大阪大学医学部附属病院	大阪府	1
ベカサス馬場記念病院	大阪府	1
京都大学医学部附属病院	京都府	1
日本大学医学部附属板橋病院	東京都	1
国立国際医療研究センター病院	東京都	1
横浜市役所	神奈川県	1
石心会埼玉石心会病院	埼玉県	1
就職小計		62
（進学）		
熊本大学養護教諭特別別科	熊本県	2
他大学進学準備		1
その他（進学準備等）		2
進学小計		5

放射線技術科学専攻（卒業生34名）		
（就職）		
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	2
日本赤十字社熊本健康管理センター	熊本県	1
熊本地域医療センター	熊本県	1
芳和会 くわみず病院	熊本県	1
潤心会熊本セントラル病院	熊本県	1
菊池都市医師会立病院	熊本県	1
菊陽台病院	熊本県	1
国立病院機構九州グループ	熊本県	1
国立病院機構九州グループ	福岡県	1
産業医科大学病院	福岡県	1
北九州総合病院	福岡県	1
飯塚病院	福岡県	1
野口記念会野口病院	大分県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	1
博愛会相良病院	鹿児島県	1
沖縄県立中部病院	沖縄県	1
神戸大学医学部附属病院	兵庫県	2
関西医科大学病院	大阪府	1
大阪市立大学附属病院	大阪府	1
京都大学医学部附属病院	京都府	1
京都府立医科大学附属病院	京都府	1
資格試験受検準備		3
就職小計		27
（進学）		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	7
進学小計		7

検査技術科学専攻（卒業生37名）		
（就職）		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	3
国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院	熊本県	2
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	1
熊本県総合保健センター	熊本県	1
飯塚病院	福岡県	1
聖マリア病院	福岡県	1
医療法人社団高邦会高木病院	福岡県	1
福岡和白病院	福岡県	1
新古賀病院	福岡県	1
佐賀県医療センター好生館	佐賀県	1
長崎労災病院	長崎県	1
長崎大学病院	長崎県	1
宮崎県庁	宮崎県	1
都城健康サービスセンター	宮崎県	1
慈愛会今村総合病院	鹿児島県	2
山口県済生会山口総合病院	山口県	1
岡山済生会総合病院	岡山県	1
株式会社あらたか	兵庫県	1
舞鶴赤十字病院	京都府	1
金沢大学附属病院	石川県	1
資格試験受検準備		2
未定（就職活動中）		2
就職小計		29
（進学）		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	7
熊本大学大学院医学教育部	熊本県	1
進学小計		8



保健学科教員紹介

(平成30年9月現在)

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：前田ひとみ
准教授：松本智晴
講師：永田まなみ
助教：南家貴美代

【看護教育学講座】

助教：福山美季

【臨床看護学講座】

教授：宇佐美しおり 河野宏明 國府浩子
三笠里香
准教授：柊中智恵子 中尾富士子
助教：樋口有紀 小濱京子 宮崎志保

【母子看護学講座】

教授：田代浩徳
准教授：坂梨京子
講師：寺岡祥子 生田まちよ
助教：島田久仁子 吉田佳代

【地域看護学講座】

教授：大河内彩子
准教授：安武 綾
助教：松本佳代 松本千晴

◆放射線技術科学専攻

【医用理工学分野】

教授：白石順二 船間芳憲
准教授：内山良一 米田哲也
助教：大野 剛 辻田直子

【医用画像学分野】

教授：荒木不次男 伊藤茂樹 富口静二
村上龍次
准教授：藤原康博

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学分野】

教授：大林光念 柳沼裕二 吉永一也
講師：伊藤雅浩
助教：橋本弘司 田崎雅義

【生体情報解析学分野】

教授：乾 誠治 大坪和明 大森久光
奥宮敏可 畑 裕之
助教：梶原隆太郎 森 信子

熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は在籍した者
 - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は在籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は在籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は在籍した者
 - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は在籍した者並びに在学生
 - ニ 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は在籍した者および在学生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者

- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 12名
（看護6名、衛生3名、放射3名）とする。
 - 四 幹事 7名
 - 五 会計 2名

- 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
 - 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
 - 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
 - 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
 - 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算
 - 三 会則の制定及び改廃
 - 四 役員の選出
 - 五 顧問の推挙
 - 六 その他の必要と認める事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
- 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。
- 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

第28条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。

第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 1 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。
- 2 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。
- 3 旅費に関しては、旅費規程に則って支給する。
- 4 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 5 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。
- 6 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。
- 7 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 8 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成25年4月1日から施行する。

編集後記

本年度より同窓会名誉会長・同窓会会長・同窓会役員が交代いたしました。これまで吉永一也名誉会長・橋田昌弘会長ならびに役員の方々には永くお世話いただきました御礼申し上げます。今後も同窓会および会報の質が変わらないよう努力していきますので会員の皆様、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

今回の会報誌でも多くの同窓生の皆様には貴重なご寄稿を頂きました。さらに同窓生の安田様とご家族よりご厚意とそのお手紙を頂戴し掲載しております。この場を借りて御礼申し上げます。

来年の同窓会総会、懇親会は例年通り、7月第1土曜日に開催いたします。多くの皆様にご臨席いただけるような内容を只今検討中です。会員の皆様よりご助言等ありましたらご一報いただけますと幸いです。

(保健学科同窓会役員：

田崎雅義 辻田直子 富永圭亮 島田久仁子)

平成30年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員

名誉会長：前田ひとみ（熊本大学大学院保健学教育部長・保健学科長）

会 長：春田昭一（済生会熊本病院）

副 会 長：羽手村昌宏（熊本大学医学部附属病院）

溝上幸洋（くまもと森都総合病院）

理 事：

(看護) 「未定」

本尚美（熊本県看護協会）

田中紀美子（九州看護福祉大学）

小藪真知子（熊本保健科学大学言語聴覚学専攻）

大澤早苗（熊本保健科学大学）

宮里邦子（九州看護福祉大学）

(放射) 荒木不次男（熊本大学医学部保健学科）

有村大喜（済生会熊本病院）

大野剛（熊本大学医学部保健学科）

(検査) 増永純夫（元熊本中央病院検査科・病理研究科）

前田浩（熊本市民病院中央検査部）

片淵達也（熊本大学医学部附属病院）

幹 事：

(看護) 富永圭亮（熊本大学医学部附属病院）

島田久仁子（熊本大学医学部保健学科）

(放射) 辻田直子（熊本大学医学部保健学科）

(検査) 田崎雅義（熊本大学医学部保健学科）

梶原隆太郎（熊本大学医学部保健学科）

高島裕子（熊本大学医学部附属病院医療技術部）

会 計：松本佳代（熊本大学医学部保健学科）

吉田佳代（熊本大学医学部保健学科）

監 事：益田美奈子（元熊本大学医学部附属病院看護部）

橋田昌弘（帝京大学福岡医療技術学部）

東京連合同窓会幹事：

松下洋一（株式会社バイオトクステック）

九州連合同窓会幹事：

春田昭一（済生会熊本病院）

松本佳代（熊本大学医学部保健学科）



看護職員募集

熊本大学医学部附属病院看護部

熊本大学医学部保健学科同窓生の皆様へ
“私たちと一緒に働きましょう”



私たちの病院は、看護職員一人ひとりが専門職としての能力向上につながるキャリア開発支援と活き活き働き続けられる職場づくりを目指しています。

病院も再開発が進み新しくなりました。学生時代に学んだ熊大病院で看護をしてみませんか。
詳細はホームページをご覧ください。